



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
vol.115

「大地の愛」

平成14(2002)年

令和8年の干支は^{ひのえうま}丙午。

中村が馬の姿を求めて訪れたのは、宮崎県の都井岬でした。ここには国の天然記念物に指定されている日本在来馬の一種である御崎馬^{みさきうま}が野生の状態で生息しています。車の中から静かに馬の群れを見ていると、一頭の雄馬が親子の馬に近づいていきました。すると、母馬は雄馬の側にゆっくりと回り込んで、身を挺して仔馬を守るのでした。母馬の愛があふれる美しい姿にしばし時を忘れました。

中村晋也の干支「大地の愛」は、のどかな平原に憩う元気な仔馬と優しい母馬の様子に、平和で健やかな日々の暮らしを願う作者の思いが込められた作品です。



(高さ)22cm × (幅)30cm × (奥行)16cm
中村晋也美術館

特別協力 公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



まちかど

キラリ

中川 桃子さん
(御幸町)



藤田保健衛生大学(現 藤田医科大学)4年生の時、白血病を発症。治療を受けながら勉学に励む。卒業後、藤田保健衛生大学病院(現 藤田医科大学病院)で勤務。退職後、三重県に戻り、結婚。その3カ月後に白血病が再発し、視力を失う。現在、UD(ユニバーサルデザイン)アドバイザーとして活動中。得意料理は、煮込みハンバーグ。

視力を失ったからこそ体感できることがある

4歳からの夢だった看護師になるため大学へ入学。4年生になり卒業試験と看護師・保健師の受験を控えた11月、突然体調を崩し、白血病の告知を受けました。闘病生活をしながら勉学に励み、いずれの試験にも合格。白血病を乗り越え、大学病院で看護師として働いていた頃のことを、「闘病生活は嫌でつらかったけど、その経験は患者さんに寄り添い、希望になるための試験だったのかもしれない」と振り返ります。

6年後の平成29年に結婚。その3カ月後、白血病が再発したことがきっかけで視力を失いました。「まさか自分の目が見えなくなるわけない」と他人事のように考えていましたが、どれだけ時間が経っても見えない。生きることを終わりにしたい」と考えました。

しかし、令和4年に亀山に戻り、「飲食店の店員さんが店の外の段差まで教えてくれたことや、家族や友人、まちの人の

優しさが私の閉ざされた心の扉を開けてくれ、前向きになれました」と話します。

現在、UDアドバイザーとして、市内の小・中学校、高等学校のほか、市外でも講演活動に奔走。「私の実体験を聞いた人が、『相手の立場に立って行動できる』こと。それが共生社会につながっていくと思います。たくさんの人に聴いてほしいので、地域の集まりにも呼んでください」と意気込みます。

「亀山は、白杖を持って駅前を歩いていると、『どちらまで行きますか?お手伝いできることはありますか?』と声を掛けてくれる人がいる優しいまち。亀山に戻って来て良かった。私が支えられた分、誰かの役に立ちたい。そう思えるのは、目が見えなくなったおかげかな」と中川さん。講演を通じた活動は続きます。

